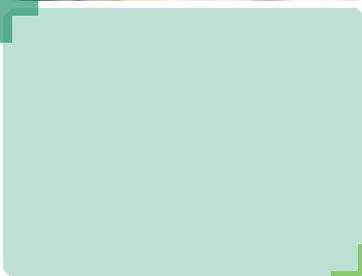


名古屋大学医学部附属病院

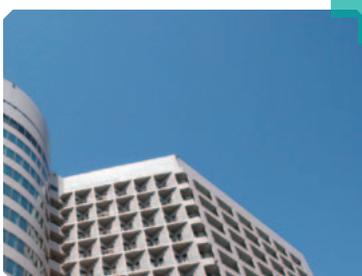
2022年度採用研修医募集



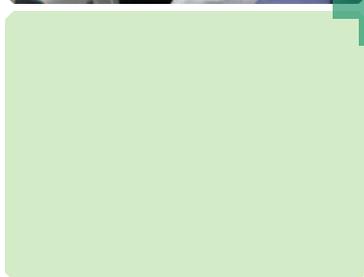
万全の
サポート



多様な
キャリアに対応



最先端の
医療経験



名大病院は、「プライマリ・ケア能力の習得」という研修理念の実現に向けたプログラムを提供しています。また、メディカルxRセンターなどの教育設備を充実させ、初期研修だけでなく、医師の生涯にわたるキャリア形成をサポートしています。

I 名大病院の臨床研修の理念と基本方針

理 念

医師としての人格をかん養し、患者を全人的に診ることができ、プライマリ・ケアに対応できる医師を育成する。

基 本 方 針

- 一、将来の専攻や進路に関わりなく、チーム医療の実践力等、全ての医師が身につけるべき基本的臨床能力の修得を目標とする。
- 一、地域の協力施設と密に連携して、その時代の地域社会・患者のニーズに柔軟に対応した研修プログラムを提供する。
- 一、非入局スーパーローテート研修を原則とする。
- 一、興味や志向性、将来のキャリアパスなど研修医の個別なニーズに柔軟に対応した研修プログラムを提供する。
- 一、指導医、看護師およびその他の医療従事者をはじめとする病院職員全員が研修医教育に参加する。

II 名大研修の強み

1 多くのスタッフが研修医を支援

卒後臨床研修・キャリア支援センター所属で各診療科に配属された若手の教員（教育専任教員）が診療の指導を行うほか、事務職員も含めた多くのスタッフが、進路や研修プログラムのアドバイス、研修の悩みやいろいろな相談ごとに対応します。

2 卒後臨床研修・キャリア形成支援センターが研修プログラムを管理：非入局スーパーローテート方式

初期研修医は、医局に入局せず卒後臨床研修・キャリア支援センターの所属で、各科ローテート研修を行います。興味や志向性をもとに柔軟に進路を選択することができます。

3 総合診療能力を養うことができる充実のプログラム内容

総合内科、家庭医療、救急医療、高齢者医療、周術期医療（麻酔科）など総合診療の多彩な専門家が研修医指導を行います。当院の総合診療の専門家は、同時に医学医療教育の専門家でもあります。

4 充実した各分野の専門家

各分野の専門家が多くの大学病院の強みです。日常診療で生じる疑問について直接その分野の専門家にきくことが可能です。

5 研究医を含むさまざまな進路に対応

将来研究医をめざす方には研究をしながらの研修や社会人大学院生になりながらの研修なども選択することができます。その他にも、医療安全や医学教育、リハビリテーションなど様々な進路で活躍できる医師を養成しています。

III 第三者機関による臨床研修評価の認定

名大病院は、2011年に第三者評価機関である卒後臨床研修評価機構（JCEP）から質の高い臨床研修病院として認定を受けました。2019年には更新調査を受審し、研修体制と研修プログラムが引き続き優良であり、臨床研修の質が維持されていると認められ、4年間の更新認定を受けました。



IV メディカルxRセンター

VR、ARを医療に応用する教育研究センターで、教育面では、医師、看護師、臨床工学技士など、さまざまな医療職の教育、また新規導入医療機器に関する教育が活発に行われています。研修医の皆さんに対するプログラムもあります。内視鏡手術を中心に、血管内治療、超音波、内視鏡検査などの（いわば旧世代）VRシミュレータは充実していますが、導入からの年月とともに陳腐化のきらいがあり、近年のVR技術の発展を反映させることと、これまでoff the jobのトレーニングが困難だった領域のデジタル化により、先端的な医学・医療シミュレーション拠点を目指しています。



●メディカルxRセンター <http://www.med.nagoya-u.ac.jp/edu/nucsc/>

V 全国最大規模の研修病院ネットワーク「名大ネットワーク」

全国最大規模の研修病院ネットワークである名大ネットワークは、学生や研修医のニーズを満たす質の高い臨床研修を実現し、生涯サポートし続けていくため、関連約70病院と定期的に意見交換などを行っています。

●名古屋大学病院・関連病院卒後臨床研修ネットワーク（名大ネットワーク） <http://med.nagoya-u.ac.jp/edu/mnw/>

VI 後期研修・専門医養成

名古屋大学では従来より、卒前から卒後に至る一貫した臨床医学教育を実現するために、「総合医学教育センター」を設置しています。2008年度からは、初期研修後の専門医育成も支援するために、「卒後臨床研修・キャリア形成支援センター」として機能充実を図り、研修サポート体制を拡充しました。これにより、名大研修の特徴である関連病院と密接に連携した質の高い臨床教育をより円滑に推進できるようになりました。すなわち、2年間の初期研修のみならず、後期・専門医のキャリアパス整備の推進とキャリア形成の積極的支援など、後期研修や専門医研修においても、病院として責任を持った体制が確立したと言えます。

VII 全国屈指の大学病院

名大病院は、1871年に設置されて以来、医療をリードしてきました。1995年には、厚生労働省から「特定機能病院」として承認され、東海地区の拠点病院として地域の医療に貢献するとともに、全国屈指の大学病院として医療の高度化に日々取り組んでいます。

■病院データ

診療科数	34	病床数	1,080床 (一般1,030+精神50)
年間入院患者数	281,396名	年間外来患者数	549,842名
年間救急車受入数	2,173件 (うち診療時間外 1,240件)	年間救急医療受入患者数	7,310名
年間手術数	9,267件		

※年間データは2020年度の数値

■研修医の処遇・待遇

所 属	卒後臨床研修・キャリア形成支援センター
身 分	医員（研修医）：非常勤
給 与 研 修 手 当	諸手当（研修奨励手当、超過勤務手当等）を含めて月額約35万円程度 休日手当は支給しない。
勤 務 時 間	8時30分～17時15分（休憩時間：60分）※週38時間45分勤務。 ただし、ローテーション期間中は始業時間、終業時間に変動あり。
休 暇	●年次休暇：1年次10日、2年次11日 ●その他の休暇：夏季休暇（3日間）、引引休暇など
日 当 直	ひと月当たり5回程度
社 会 保 険 労 働 保 険	●健康保険（全国健康保険協会管掌健康保険） ●公的年金（厚生年金） ●労働者災害補償保険法の適用 有 ●国家・地方公務員災害補償法の適用 無 ●雇用保険 有 ●医師賠償責任保険の扱い 病院で加入（全員加入）
健 康 管 理	●健康診断 年2回実施 ●各種予防接種 実施
そ の 他	●外部の研修活動、学会、研究会等への参加可能 （学会、研究会等への参加費用の一部支給あり） ●研修医室 有 ●研修用宿舎 有 ●保育施設 有（定員制）

2022年度 名古屋大学医学部附属病院 初期臨床研修 プログラム

■ 名古屋大学医学部附属病院における研修 ■ 希望により一部協力病院における研修を可能とする研修 ■ 協力病院における研修

プログラム名称		定員数	1年次							2年次								
基本プログラム		10	総合内科 12週間 (必修)	外科 8週間 (必修)	麻酔科 12週間 (必修)	産科 婦人科 4週間 (必修)	専門内科 12週間 (必修)	小児科 4週間 (必修)	協力施設 地域医療 4週間 (必修)	精神科 4週間 (必修)	救急科・ ICU 4週間 (必修)	総合診療科 (一般外来) 4週間 (必修)	選択科目 36週間					
基礎医学研究医を目指す人のためのプログラム		1	総合内科 12週間 (必修) 一般外来研修4週間を含む	外科 4週間 (必修)	麻酔科 4週間 (必修)	産科 婦人科 4週間 (必修)	専門内科 12週間 (必修)	精神科 4週間 (必修)	救急科・ ICU 4週間 (必修)	小児科 4週間 (必修)	選択科目 4週間	協力施設 地域医療 4週間 (必修)	選択科目 48週間					
ハイブリッドプログラムA		2	総合内科 12週間 (必修)	必修科目 4週間 【外科・産婦人科・小児科】	精神科 4週間 (必修)	麻酔科 12週間 (必修)	救急科・ ICU 4週間 (必修)	専門内科 12週間 (必修)	総合診療科 (一般外来) 4週間 (必修)	協力施設 地域医療 4週間 (必修)	救急科 4週間	必修科目 8週間 【外科・産婦人科・小児科の未修了分】	選択科目 36週間					
ハイブリッドプログラムB	津島市民病院コース	1	協力型臨床研修病院				内科 24週間以上 (必修)	救急科 12週間以上 (必修)	外科 12週間以上 (必修)	協力施設 地域医療 4週間 (必修)	精神科 4週間 (必修)	小児科 4週間 (必修)	産科 婦人科 4週間 (必修)	総合診療科 (一般外来) 4週間 (必修)	選択科目 32週間			
	岐阜県立多治見病院コース	1	協力型臨床研修病院				内科 20週間以上 (必修)	小児科 4週間以上 (必修)	救急科 12週間以上 (必修)	外科 12週間以上 (必修)	協力施設 地域医療 4週間 (必修)	精神科 4週間 (必修)	内科 4週間 (必修)	産科 婦人科 4週間 (必修)	選択科目 36週間			
	江南厚生病院コース	1	協力型臨床研修病院				内科 16週間以上 (必修)	内科(推奨) または 選択科目 8週間以上	救急科 6週間以上 (必修)	麻酔科 6週間(推奨) (4週間必修)	外科 6週間(推奨) (4週間必修)	選択科目 (小児科、産婦人科も選択可) 10週間程度	協力施設 地域医療 4週間 (必修)	精神科 4週間 (必修)	小児科 4週間 (必修)★	産科 婦人科 4週間 (必修)★	選択科目 36週間 (一年次で内科の研修期間が24週間に満たない場合は、 24週間に達するまでの分の内科研修を必修で行う)	
周産期プログラム	小児科 重点コース	4	総合内科 12週間 (必修)	外科 8週間 (必修)	麻酔科 12週間 (必修)	産科 婦人科 4週間 (必修)	小児科 16週間(必修) うち4週間は協力病院における研修が可能			協力施設 地域医療 4週間 (必修)	精神科 4週間 (必修)	救急科・ ICU 4週間 (必修)	総合診療科 (一般外来) 4週間 (必修)	周産期 8週間 (必修)	専門内科 12週間 (必修)	選択科目 16週間		
	小児科重点 たすきがけコース		協力型臨床研修病院				内科 20週間以上 (必修)	小児科 4週間以上 (必修)	救急科 12週間以上 (必修)	外科 12週間以上 (必修)	協力施設 地域医療 4週間 (必修)	精神科 4週間 (必修)	内科 4週間 (必修)	産科 婦人科 4週間 (必修)	周産期 8週間 (必修)	専門内科 12週間 (必修)	選択科目 12週間	選択科目 4週間
	産婦人科 重点コース		総合内科 12週間 (必修)	外科 8週間 (必修)	麻酔科 12週間 (必修)	産科婦人科 16週間 (必修)			小児科 4週間 (必修)	協力施設 地域医療 4週間 (必修)	精神科 4週間 (必修)	救急科・ ICU 4週間 (必修)	総合診療科 (一般外来) 4週間 (必修)	周産期 8週間 (必修)	専門内科 12週間 (必修)	選択科目 16週間		
	産婦人科重点 たすきがけコース		協力型臨床研修病院				内科 20週間以上 (必修)	小児科 4週間以上 (必修)	救急科 12週間以上 (必修)	外科 12週間以上 (必修)	協力施設 地域医療 4週間 (必修)	精神科 4週間 (必修)	内科 4週間 (必修)	産科 婦人科 4週間 (必修)	周産期 8週間 (必修)	専門内科 12週間 (必修)	選択科目 12週間	選択科目 4週間

★…小児科、産科婦人科を1年次で選択し研修を行った場合は、選択科目とする。

ハイブリッドプログラム A

1年次に大学病院、2年次に以下の協力型臨床研修病院で研修を行う。

- ◎豊田厚生病院 ◎名古屋記念病院 ◎春日井市民病院 ◎名古屋掖済会病院
- ◎大同病院(だいどうクリニック) ◎国家公務員共済組合連合会東海病院

ハイブリッドプログラム B

1年次に以下の協力型臨床研修病院、2年次に大学病院で研修を行う。

- ◎津島市民病院 ◎岐阜県立多治見病院 ◎江南厚生病院

周産期プログラム

小児科医または産婦人科医を目指す人のための専門的なプログラムで、小児科、産婦人科についてそれぞれ2つのコースを設けている。両科とも2つのコースの1年次カリキュラムは同じであるが、たすきがけコースを選択した場合、2年次のうち8ヶ月間、協力型臨床研修病院で研修を行う。

小児科重点コース

2年次のうち2ヶ月間、以下の協力型臨床研修病院で小児科研修を行うことができる。

- ◎名古屋掖済会病院 ◎春日井市民病院 ◎中部ろうさい病院 ◎中京病院 ◎豊田厚生病院 ◎名古屋記念病院

小児科重点たすきがけコース

2年次のうち8ヶ月間、以下の協力型臨床研修病院で研修を行う。

- ◎名古屋記念病院 ◎春日井市民病院

産婦人科重点コース

2年次のうち2ヶ月間、以下の協力型臨床研修病院で産婦人科研修を行うことができる。

- ◎名古屋掖済会病院 ◎春日井市民病院 ◎中部ろうさい病院 ◎岐阜県立多治見病院

産婦人科重点たすきがけコース

2年次のうち8ヶ月間、以下の協力型臨床研修病院で研修を行う。

- ◎春日井市民病院 ◎岐阜県立多治見病院

基礎医学研究医を目指す人のためのプログラム

基礎医学研究分野への進路志向の高い方に向けて、基本的臨床能力の習得を目指す研修とともに、配属を希望する基礎医学系講座の主宰者の推薦のもと、研修カリキュラムに沿って基礎医学に専念する期間が最大48週間選択することが可能なプログラムです。研究医を目指す方に初期臨床研修を諦めてほしくない。もちろん研究も諦めてほしくない。そんな思いから生まれた、名大病院の新しいプログラムです。

総合内科研修

総合診療科病棟で8週間、老年内科病棟で4週間行う。

専門内科研修

消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、糖尿病・内分泌内科、血液内科、腎臓内科、脳神経内科から4週間単位で選択する。

外科研修

消化器外科で8週間行う。
※東海病院で最大2週間研修を行うことができる。

小児科研修

名大病院または協力型臨床研修病院で行う。ただし、1年次に協力型臨床研修病院で小児科研修を行う場合は、麻酔科研修を事前に終了していることとする。

救急外来研修

2年間の全研修期間を通して行う。
平日：17時15分～翌8時
(ただし、救急外来へは17時に集合)
休日・祝日：8時～翌8時
(ただし、日直と当直が17時に交代)

■ハイブリッドプログラム A とハイブリッドプログラム B を除く各プログラムの選択科目において、原則4週間単位で以下の協力型臨床研修病院での院外研修が可能。なお、院外研修は最大16週間(地域医療研修を含む)までとする。

救急医療研修

- ◎名古屋掖済会病院
- ◎名古屋第二赤十字病院
- ◎中東遠総合医療センター ◎大同病院

外科・整形外科研修

- ◎国家公務員共済組合連合会東海病院

小児科研修

- ◎名古屋掖済会病院 ◎春日井市民病院
- ◎中部ろうさい病院 ◎中京病院
- ◎豊田厚生病院 ◎名古屋記念病院

産婦人科研修

- ◎名古屋掖済会病院 ◎春日井市民病院
- ◎中部ろうさい病院
- ◎岐阜県立多治見病院

精神科研修

- ◎愛知県医療療育総合センター中央病院

名大病院は、総合診療能力を養うことができる研修プログラムを提供し、総合内科、救急医療、周術期医療（麻酔科）など各領域の専門家が研修医指導を行っています。高度な医療を安全に提供するための国内有数の医療安全体制が研修をサポートし、研修医は医療安全に対する高い意識を持って研修に取り組んでいます。

総合診療科

講師
佐藤 元紀 先生
2003年
名古屋大学卒



難しい症例の患者さんと、 丁寧に向き合える環境です。

総合診療科は、難しい症例に対して、あらゆる治療法を検討したうえで患者さんに最適な治療を行っています。この場合、症状や検査結果から狙いを定めて、適切な診断をくだしています。このような一連のプロセスを早くから経験すると、別の難しい症例にも対処できる応用力が身につきます。また、市中病院では10人程度の患者さんを受け持つのに対して、名大病院では3~4人と少ないため、目の前の症例にじっくりと向き合え、適切な治療法を見出すことができます。総合診療科での研修は、応用力に結びつく経験を積める最適な環境と言えます。さらに、医学教育の専門家でもある指導医が、研修医の皆さんの状況に応じて適切な指導を行い、将来自ら考え、決定できる医師になれるようサポートしています。実は私自身も、じっくりと学べる名大病院を研修先として選択し、貴重な経験を積むことができました。ぜひ皆さんも名大病院で研修されることをおすすめします。

麻酔科

助教
安藤 貴宏 先生
2004年
浜松医科大学卒



3カ月の研修で100例以上の症例！ ハードだけれども実力は倍増。

手術にとって必要不可欠な「麻酔」。麻酔科で学ぶ患者さんの全身管理は、将来、どの診療科の専門医を目指すとしても、必ず習得しておきたい重要なスキルです。特に名大病院では手術件数が多い上に、一般病院では経験が不足しがちな重症例も数多く扱います。麻酔科研修は、そんな環境の中で3カ月間、麻酔管理、そして全身管理を体得するカリキュラムとなっています。麻酔科の研修中、皆さんが経験する全身麻酔症例数は、100例以上にのびます。正直、大変ですが、医師としてのキャリアを積んでいく上で極めて貴重な経験になるのは間違いありません。さらに麻酔科は、手術麻酔の他、集中治療、ペインクリニック等の麻酔関連領域を担当しており、医学教育や医療全体についても熱心に考え、真剣に取り組む多くの指導医がいます。この多くの指導医を通じ、様々な考え方に触れられます。充実した指導体制のもと、研修医自身にも主体的に動いて頂くように導いています。他施設では経験できない有意義な研修になることは間違いありません。ぜひ皆さんも名大病院で実力を磨いてみませんか。

救急科・ICU

助教
山本 尚範 先生
2007年
大阪市立大学卒



目の前の患者さんを 死なせない力を教育します。

当院の救急科は1次から3次の症例を受け入れており、愛知県の救急医療の中核です。Common Diseaseから重症症例まで幅広く受け入れており、経験できない症例はありません。初期研修医の個々の技量に応じて、救急専門のスタッフが共に診療したり、無理のない範囲で任せたりしながらER業務を行います。あまり意識されていませんが、ER診療はエビデンスを実践する絶好の機会です。また診察技術などのアートと捉えられる一面も申し分なく必要とします。エビデンスとアートと豊富な症例、これら全てを経験できることを約束します。そして、名大病院救急科には、何事も全員で活発に話し合い、研修医や若手医師に対する積極的な教育を重んずる風土があります。皆さんが名大病院での研修を選択されることを、スタッフ一同心よりお待ちしております。

患者安全推進部

副病院長 教授
長尾 能雅 先生
1994年
群馬大学卒



研修医のうちから、患者安全の 考え方を身に付けましょう。

名大病院では、「患者安全推進部」を設置し、医療のさまざまなリスクを低減する活動を行っています。現在、専従医師や専従看護師などを中心に、総勢15名の医療スタッフが関わり、国内最高水準の患者安全体制を敷いています。研修医の皆さんは、研修医インシデント検討会や、死因検討カンファレンス、患者安全コア会議などに参加が義務づけられています。また、一定期間、患者安全推進部をローテーションすることも可能で、患者安全の考え方に触れられる機会が沢山用意されています。研修医の段階から患者安全の重要性を知り、医療事故の防止策や改善策について学ぶことはとても大切です。皆で一丸となって、患者さんの安全を守りましょう。

研修医はローテーション研修を積みながら、自分の興味や志向性をもとに自主的に進路を決めていきます。丁寧な指導と快適な研修環境の中で、安心して研修に打ち込みます。

1年次 研修医

2020年 4月 採用

M先生

2016年度
名古屋大学卒



多くの診療科でしっかり学べる

名大病院では、指導医の先生方が優しく丁寧に指導して下さいます。また、研修医同士の仲がとても良いです。総合診療科外来では、自分で外来の初診を持つことができ、診断や治療方針を自分で考え、診断することの面白さを知ることができました。老年内科では、様々な疾患を抱えている方が多く、退院後の生活なども視野に入れて診療に当たることを学びました。腎臓内科では、電解質異常への対処の仕方や透析について深く学ぶことができました。消化器外科では、手術や手技について丁寧に教えてくださり、大変

勉強になりました。また、指導医の先生方は明るく親切的な先生ばかりで、とても良い雰囲気の中、研修をすることができました。精神科では、初診の患者さんの予診をとり、その後、本診に陪席することで、指導医の先生の対応の仕方を学ぶことができます。2年次になると、外病院での研修も一定期間可能です。私も救急科、小児科、産婦人科で外病院研修を予定しています。名大病院の研修にご興味のある方、まずは一度、見学してみてください。

ローテーション (基本プログラム)

ターム	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
1年次	総合診療科	総合診療科	総合診療科 一般外来	老年内科	腎臓内科	消化器外科	麻酔科	麻酔科	麻酔科	S-ICU	精神科	消化器内科	血液内科

研修医の一日

精神科



2年次 研修医

2019年 4月 採用

Y先生

2018年度
ハンガリー国立
ペーチ大学卒



大学病院でフレキシブルな研修、手技も身に付く

名大病院では自由度の高い研修が経験できます。1年次ではある程度ローテーション先が決められていますが、2年次では9ヶ月間自分の行きたい診療科を好きなだけ選択することができますし、大学病院なので多くの診療科で研修できます。また、ハイブリットプログラムでは1年間、市中病院で研修することで大学・市中病院どちらも経験することができます。一般的に大学病院は市中病院より、手技が少なくないと聞かれます。しかし、名大病院の多

くの研修プログラムでは、麻酔科3ヶ月間のローテーションが必須なので大丈夫。麻酔科の準備から抜管・退出まで指導医の先生と行なっていきます。そこでは静脈路確保はもちろん、動脈路確保も基本的に行います。症例によってはCVカテーテル留置も経験し、私は脊椎麻酔も何度も経験させていただきました。また、最終日には麻酔方法なども自分で決め管理させていただきました。皆さんと一緒に研修できることを楽しみにしています。

ローテーション (基本プログラム)

ターム	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
1年次	糖尿病・内分泌内科	呼吸器内科	消化器外科2	消化器外科2	麻酔科	麻酔科	麻酔科	循環器内科	産婦人科	小児科	総合診療科	総合診療科	老年内科
ターム	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	
2年次	救急科 名古屋掖済会病院	形成外科	耳鼻咽喉科	眼科	泌尿器科	精神科	地域医療 中村医院	産科婦人科 岐阜県立 多治見病院	老年内科	S-ICU	形成外科	皮膚科	

研修医の一日

総合診療科



※研修医の年次は2020年度時点

研修医の出身大学

名大病院の研修医は全国各地の大学から集まっており、他大出身者も研修を行いやすい雰囲気があります。

出身大学

北海道大学、秋田大学、山形大学、福島県立医科大学、筑波大学、獨協医科大学、群馬大学、防衛医科大学、北里大学、東邦大学、日本大学、杏林大学、東京医科大学、東京女子医科大学、東海大学、新潟大学、富山大学、金沢医科大学、福井大学、山梨大学、信州大学、岐阜大学、浜松医科大学、名古屋大学、愛知医科大学、藤田医科大学、三重大学、滋賀医科大学、関西医科大学、神戸大学、兵庫医科大学、奈良県立医科大学、鳥取大学、島根大学、川崎医科大学、広島大学、香川大学、高知大学、産業医科大学、久留米大学、福岡大学、佐賀大学、熊本大学、大分大学、宮崎大学、琉球大学、上海第二大学(中国)、南通大学(中国)、東国大学(韓国)、ペーチ大学(ハンガリー)、ボズナン医科大学(ポーランド)

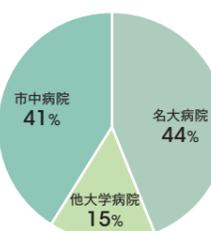
研修医の出身大学所在地域 (2015年度~2020年度入職)



初期研修後の進路

当院で初期研修を修了した研修医の約半数が、後期研修医、大学院生などとして当院に残っています。一方、当院初期研修で医師として求められる臨床能力を身に付けた後、他の大学病院や市中病院において活躍している研修修了者も多くいます。

初期研修修了後の進路 (2014年度~2019年度修了者)



豊富な勉強会

研修医は、初期研修において必修の剖検検討会、M&M (Mortality & Morbidity) カンファレンスはもちろん、腹部エコーセミナー、心エコーセミナーなど、卒業臨床研修・キャリア形成支援センター所属の教育専任教員が開催する勉強会にも積極的に参加しています。

研修医室



研修医一人一人にブーススペースを提供しています。研修医室内には、電子カルテ端末も設置しており、デスクワークに適した環境です。

研修医宿舎

家賃(月額)
13,200円
(共益費含む)

研修医宿舎から病院までは
徒歩5分



希望者は全員入居可能です。最寄駅まで徒歩5分、コンビニは徒歩1分、ショッピングセンターも徒歩5分圏内にあり、快適に過ごせる場所に立地しています。

卒後臨床研修・キャリア形成支援センターは、初期研修だけでなく、医師をはじめとするあらゆる医療職の生涯にわたるキャリア形成をサポートしています。

専任の医師とスタッフが、初期研修の内容はもちろん、キャリアや生活面の相談にも対応します。

センターの特長

- 1 初期研修プログラムはセンターが一括管理しています。
- 2 研修医は初期研修中の2年間、センターに所属し、非入局でフレキシブルな初期研修を行うことができます。
- 3 センター所属の医師と事務職員が、初期研修に関するだけでなく、研修医に対してあらゆるサポートを行います。
- 4 センター所属の教育専任教員を11診療科に配置し、診療科での研修医指導はもちろん、研修医対象のセミナーや勉強会も数多く開催しています。
- 5 初期研修だけでなく、後期研修や生涯研修まで、医師としての生涯にわたるキャリア形成をサポートします。



卒後臨床研修・キャリア形成支援センター長
教授

錦織 宏

1998年 名古屋大学卒



東海地区最大の医師ネットワーク拠点で人脈作りを

皆さんは医師として働き始める最初の2年間、喜怒哀楽も含めた様々な感情の荒波に晒されます。臨床現場には患者さん一人一人のライフストーリー（人生史）と病いのナラティブ（物語）があり、学生時代に身につけた知識と技能だけで患者さんの抱える苦悩に対峙するには、皆さんがあまりにも未熟だからです。ただその未熟さがむしろ臨床現場では力になりうるのだということも、研修医として過ごす2年間で実感することになります。国家試験で問われることのみならず、でもとても大事な臨床マインドを、名大病院に所属する指導医だけでなく、看護師・薬剤師・検査技師・放射線技師・事務職員など、皆さんにとっての社会人の先輩と接する中で、涵養していきましょう。

研修病院としての名大病院の強みは、名大方式とも言われた非入局スーパーローテート研修の歴史、世界で活躍する医学研究者との近い距離、世界標準の質の医療を提供している臨床現場、東海地区最大規模のメディカルxRセンター（旧クリニカルシミュレーションセンター）など、枚挙に遑（いと）がありませんが、何と云っても誇るべきはその構成員だと思っています。目標にできるような指導医と出会い、病院の中で自分なりの居場所を持ちながら臨床研修を行うことができるような環境を名大病院では準備しています。志のある皆さんとの出会いを楽しみにしています。

研修医指導体制のさらなる充実のため

11診療科に教育専任教員を配置

名大病院では、卒後臨床研修・キャリア形成支援センター所属の教育専任教員を11診療科に配置して、屋根瓦方式の研修医指導体制の充実を図っています。

教育専任教員は、研修医の指導や各診療科の研修コーディネートだけでなく、診療科の枠を超えた横のつながりを生かして、研修医のニーズに応じたセミナーや勉強会などを企画・実施しています。全員が指導医資格を有し、研修医の良き相談相手にもなっています。



勉強会



教育専任教員ミーティング

毎月2回教育専任教員が集まってミーティングを開催し、研修医対象セミナーの企画や各診療科の研修医教育について幅広く検討・意見交換を行っています。

臨床医にとっては診療の技術・知識も重要ですし、「良い医者とは何か」といった臨床哲学的な模索も大事です。一緒に考えていきましょう。



小笠原 一能

教育専任教員（精神科）
1995年 京都府立医科大学卒

最先端医療の中で基礎からじっくり学びませんか。わたしたち教育専任教員があなたの研修をサポートします。



村松 友佳子

教育専任教員（小児科/総合周産期母子医療センター）
2000年 名古屋大学卒

当院での研修は、長期的に多様なキャリアパスを考え選択していく上で、大きな力になると思います。



牛島 洋子

教育専任教員（血液内科）
2003年 名古屋大学卒

名大研修のいいところは、熱い指導陣！豊富で幅広い症例数！いろんな研修ニーズにこたえられる懐の広さ！手厚く支えてくれる事務の皆さんです！！



高見 秀樹

教育専任教員（消化器外科）
2003年 名古屋大学卒

幅広いサポート体制と多彩な症例があり、様々なニーズに対応可能です。我々と共に魅力的な研修を作り上げていきましょう！



田中 章仁

教育専任教員（腎臓内科）
2005年 名古屋大学卒

高度な専門性に裏打ちされた質の高い臨床研修は大学病院ならではの！どっぷり浸かって、2年後に大きく羽ばたいてください。



坪井 崇

教育専任教員（脳神経内科）
2005年 名古屋大学卒

ただたくさん症例を経験するだけでは獲得できない洗練された臨床能力を一緒に身に付けましょう！



近藤 猛

教育専任教員（総合診療科）
2006年 名古屋市立大学卒

充実した指導体制に対し一人一人に目が届く人数での研修。ここまで恵まれた体制は全国でもここだけです。一緒に魅力的な研修を作っていきましょう。



尾上 剛史

教育専任教員（糖尿病・内分泌内科）
2007年 名古屋大学卒

一般臨床、救急対応はもちろん、先端医療、基礎研究、地域医療ect.なんでも学んで選ぶことができます！特に進路にお悩みの方、ぜひどうぞ。



金 聖泰

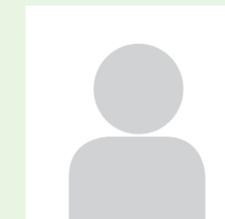
教育専任教員（老年内科）
2009年 名古屋大学卒

「女性診療」を経験することは、将来どの科に進むにも重要です。名大ならではの充実した指導体制で、皆さんの学びをサポートします！



玉内 学志

教育専任教員（産婦人科）
2011年 名古屋大学卒



2021年4月以降配置予定

病院見学のご案内

名大病院の病院・研修見学は、一人ひとりに合わせたオーダーメイドです。
さまざまなご要望にお応えしていますので、お気軽にご相談ください。

お申込方法

卒後臨床研修・キャリア形成支援センター
Web サイト

<https://med2.nagoya-u.ac/>



- 1 左の QR コードを読み取り、Web サイトへアクセス
- 2 「病院見学の申込み」をクリックし、興味のある見学コースを選択
- 3 申込フォームに必要な事項を入力
- 4 **受付完了!**
病院見学担当者から、メールで詳細をご連絡いたします

見学コースのご紹介

1

一般コース (自由選択コース)

興味のある診療科を自由に選んで見学できます。

はじめて名大病院を見学する人におすすめ!

2

特別コース

「心電図読影コース(循環器内科主催)」「腹腔鏡手術が学べる外科見学コース(消化器外科主催)」など、ご自身の興味のあるテーマに沿って見学できます。

興味関心の定まっている人や、見学2回目の人におすすめ!

※各コースの詳細は、Web サイトをご確認ください。

2022年度入職 研修医 採用試験日程

第1回

2021年7月20日(火)

応募受付締切 7月13日(火) 必着

第2回

2021年7月24日(土)

応募受付締切 7月13日(火) 必着

- 出願手続(必要書類): 研修医願書兼履歴書(所定様式)、卒業(見込)証明書、成績証明書、健康診断証明書、配属を希望する基礎医学系講座主宰者の推薦状(基礎医学研究医を目指す人のためのプログラム希望者のみ)
- 選考方法: 書類、筆記試験、面接
- 選考結果: 全国マッチングシステムによる

詳細は卒後臨床研修・キャリア形成支援センターWebサイトに掲載します。



名古屋大学医学部附属病院 卒後臨床研修・キャリア形成支援センター

〒466-8560 名古屋市昭和区鶴舞町65

TEL: 052-744-2644 FAX: 052-744-2644 E-mail: meidai-kenshu@med.nagoya-u.ac.jp